教学入門 【4】御本尊と受持即観心

本文中の空欄に語群から選んで適切な言葉を埋めなさい。

①御本尊の意義

私たちが根本として尊敬する、信仰の根本対象を（　本尊　）といいます。
私たちが拝する御本尊は、あらゆる衆生を成仏させる「根本の法」であり、一切衆生の胸中にある仏種である（　南無妙法蓮華経　）を顕したものであり、南無妙法蓮華経を体得された（　日蓮大聖人　）の御生命を顕したものです。
(1)御書には『（　日蓮　）が（　たましひ　）をすみにそめながして・かきて候ぞ信じさせ給へ、仏の御意は（　法華経　）なり（　日蓮　）がたましひは（　南無妙法蓮華経　）に・すぎたるはなし』とあるように、御本尊は（　日蓮大聖人　）の仏の生命境涯をあらわしたものです。
(2)御本尊は私達自身の仏界を現実に映し出す（　明鏡　）です。
(3)法華経の（　虚空会　）の儀式を用いて御本尊をあらわしました。
(4)南無妙法蓮華経の御本尊は、私達の生命に（　十界　）が一界も欠けることなく円満に具わっており、十界の優れた特性が集まっていることを顕しています。これを（　十界具足　）の曼荼羅といいます。
(5)凡夫の身に仏の境地を具体的に顕した御本尊は、（　事　）の一念三千そのものです。
(6)御書に『（　法華経　）のはたじるし』とあるように、御本尊への信を広げていくことが、万人成仏を説く（　法華経　）を弘めることになり、（　広宣流布　）の道を開くことになります。

②受持即観心

（　観心　）とは、元々は自身の心に具わる十界を見つめる修行法であり、悟りに達するのが困難でした。大聖人が説かれた（　南無妙法蓮華経　）の題目を信じて題目を唱えることを（　受持　）と呼びます。
私達が御本尊を信じ題目を唱えることで仏界の生命を涌現することができるようになったのです。
このことを（　受持即観心　）といいます。
御書には『釈尊の因行果徳の二法は（　妙法蓮華経　）の五字に具足す我等此の五字を受持すれば自然に彼の因果の（　功徳　）を譲り与え給う』とあります。

③下種仏法と三大秘法

成仏の根本法である（　南無妙法蓮華経　）を人々に信じさせることを（　下種　）と言います。
下種による功徳を（　下種益　）と言います。日蓮大聖人の仏法は（　下種仏法　）です。
三大秘法とは、（　本門の本尊　）・（　本門の戒壇　）・（　本門の題目　）です。
本門とは本当の仏道に入る門（入口）、すなわち真実の教えのことであり、末法においては日蓮大聖人が説かれた（　文底独一本門　）を指します。

戒・定・慧の三学で見れば、本門の戒壇が（　戒　）、本門の本尊が（　定　）、本門の題目が（　慧　）にあたります。
本門の本尊とは、万人成仏の根本法である（　南無妙法蓮華経　）であり、（　御本尊　）です。
本門の戒壇とは、本門の本尊を安置して修行に励む場所を言います。御本尊を受持することが戒を持つことになります。
本門の題目とは、本門の本尊を信じて（　南無妙法蓮華経　）と唱うれば、即ち（　祈り　）として叶わざるなく、（　罪　）として滅せざるなく、（　福　）として来たらざるなく、（　理　）として顕れざるなきなり』とあるとおり、（　御本尊　）を信受して唱題することで最高の幸福境涯が確立できます。

御本尊	南無妙法蓮華経	下種益	熟益	脱益	法華経	法華弘通	虚空会	本尊	
日蓮	明鏡	広宣流布	本門の戒壇	本門の題目	本門の本尊	受持	受持即観心		
十界	九界	仏界	事	理	妙法蓮華経	功徳	下種	下種仏法	祈り 観心
戒	定	慧	罪	福	理	たましひ	文底独一本門	十界具足	日蓮大聖人

※本文の趣旨を踏まえて、次の文章が正しいものに〇、間違っているものに×をつけなさい。

（　〇　）御本尊を信じて南無妙法蓮華経を唱えていけば、自分自身が南無妙法蓮華経の大法と一体となり、仏界を現すことができる。

（　〇　）末法においては南無妙法蓮華経の御本尊を受持することが、そのまま成仏の根本の修行、すなわち観心である。

（　×　）釈尊から下種を受けていない末法の衆生の中からは成仏することができない人が出てくる。

（　×　）釈尊滅後には天台大師などが南無妙法蓮華経を説いた。

（　〇　）南無妙法蓮華経はあらゆる仏が成仏する時に覚知した根本の法である。

※次に書かれた出来事や言葉について、上下で関連の深いものを線で結んで下さい。

① 虚空会の儀式
② 理の一念三千
③ 十界具足の曼荼羅
④ 我本行菩薩道
⑤ 本門の本尊

南無妙法蓮華経
功徳聚
釈尊からの付嘱
釈尊の成仏の根本原因
天台大師

※次に説明する文章がどの利益にあたるか利益の名称を書きなさい。

① 既に仏の説法を聞いた衆生が仏の能力を開発し成熟、調えて得られる利益　（　熟　）益

② 既に調熟された衆生が過去の仏の説法を思い出して根源の苦悩から解放される利益（　脱　）益

③ 仏法を説いて信じさせることによって人々が得られる利益　（　下種　）益